



40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかきごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけありあけのつきとみるまでに	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
物や思ふと人の問ふまで	あまりてなどかひとのこいしき	人の命の惜しくもあるかな	つらぬきとめぬたまぞちりける	雲のいづこにつきやどるらん	花ぞ昔の香ににほひける	松も昔の友ならなくに	しづこころなくはなのちるらん	流れもあへぬ紅葉なりけり	吉野の里に降れる白雪	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
平兼盛	参議等	右近	文屋朝康	清原深養父	紀貫之	藤原興風	紀友則	春道列樹	坂上是則	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
たいらのかねもり	さんぎひとし	うこん	ふんやのあさやす	きよはらのふかやぶ	きのつらゆき	ふじわらのおきかぜ	きのともり	はるみちのつらき	さかのうえのこれのり	ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ